

ダブルカーボン目標下における中国の新エネルギー自動車産業の発展に関する分析(要旨)

中国・遼寧大学東北亜研究院長・教授 張東明

同 研究員助理・修士課程 雷欣雨

深刻化する地球規模の気候変動問題を受け、各国は低炭素経済への移行を進めている。世界最大の二酸化炭素排出国である中国は、2030年までに二酸化炭素排出量をピークに達させ、2060年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにするという「ダブルカーボン」目標を掲げている。この状況下では、内燃機関車の転換とアップグレードが急務である。新エネルギー自動車産業はかつてないほどの好機を迎えているが、同時に多くの課題にも直面している。

本稿では、「ダブルカーボン」という背景の下、中国の新エネルギー自動車産業の歴史、現状、課題、潜在的な機会を体系的に整理することを目的とする。まず、低炭素経済への転換を促進する新エネルギー自動車の中核的な役割について論じ、政治、市場需要、技術革新が同産業に与える影響について考察する。これを踏まえた上で、本稿では、技術的ボトルネック、インフラの不備、国際競争といった、同産業が直面する一連の課題について引き続き論じる。

最後に、本稿では中国の新エネルギー自動車産業の動向を踏まえ、産業振興のための理論的裏付けとなる政策提案を行う。本稿は、包括的な分析を通じて、政策立案者や業界関係者が「ダブルカーボン」の目標達成に向けた中国の新エネルギー自動車産業のさらなる発展を推進するための示唆を提供することを目指している。